

4 酸素ボンベ関係の事例 ～酸素の流量確認について～

発生時の状況と経過

- ・通常、酸素流量1ℓだが、昼のボンベ確認時に0.5ℓになっていることに気付いた。

発生時の対応と処置

- ・気付いた時点で保護者に連絡、状況と本人の体調について問題がなかったことを伝えた。
 - ・保護者に発生時の状況を説明した際、保護者から病院受診後、意図的にボンベの量を0.5ℓに設定し(ボンベの量を調整したかったためとの説明を受ける。)、登校したことの説明を受けた。
- ※登校後の引継ぎが確実にできていなかったことが、原因や背景につながったと考えられる。

考えられる原因や背景

- ・保護者が流量を変更したことを、引継ぎの際にしっかりと確認しなかったため、ボンベのチェックをせず、0.5ℓのままだったのを1ℓになっていると思い込み、ボンベの確認をしなかった。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・登校時の確認の際に、保護者と一緒に酸素流量を確認する。
- ・担任もチェック表を作成し、確認する。

ポイント！

- ボンベの流量計のダイヤルは固定されていないので、何かの動作で動くことも想定されます。このようなことも踏まえて定期的にチェックすると良いでしょう。
- ボンベの流量計に流量を書いたものを付けておくと確認がし易いと思います。
- 保護者の考えで変更されていても、指示書に従って処置等をしましょう。